

テーマ『子どもたちの育ちってなんだろう？』

5つに分かれたグループごとにテーマに沿って『子どもたちにどのように育ってほしいか』『大切にしたいこと』などについて懇談をしました。途中でグループのメンバーチェンジをして、さらに続けたことで、より多くの人と話すことができ有意義な会になりました。



A グループ

挑戦できる子になってほしい。
その土台として安心感が必要。
自分の気持ちを表現したり、安心して話すことができるために大人たちがもっとつながっていければ…。

子ども同士でコミュニケーション能力を養ってほしい。
ちゃんと会話をすることが、トラブルがあっても解決する土台になる。



話しあう力、考える力、素直に謝れる力、ミスを許せる寛容力が育ってほしい。

地域では今簡単に子どもたちに声かけができず、不審者扱いされてしまう。
地域では見守っていても、子どもたちは見守られている感覚はあるのだろうか？
安心感を感じられるよう、もっと大人たちがつながっていききたい。

『らしさ』という言葉が校則の中で使われなくなっている学校もある。ルール、虐待、ヤングケアラーなどが問題になった時には考える視点として「小学生らしい、中学生らしい生活ができているのか？」を基準に考えられるとよいのではないかな。あいまいさのある「らしい」という言葉を話しあうきっかけの言葉として残しながら、子どもらしさ、中学生らしさ、高校生らしさと考えたり変えていけるとよいと思う。

B グループ

子どもの育ちは『木』に表現できるのではないかな？根っこ部分には、自分を好きでいてほしい、そして自己肯定感をもってほしいと思う。
大人はその根っこに水をあげていく。自分を大切にそして友達を大切にしたいと思う。想像力をもち、失敗を恐れない気持ち、当事者意識をもつ子になってほしい。

誰でも子ども時代は多少の悪さをしたことがあるかと思うが、周囲の寛容さがあった。昨今は世の中が整い過ぎてしまっているのではないかなという意見もあった。



この『木』(子どもたち)をどう育てていくかな？その部分は『地域』でもある。
地域のたくさんの行事に参加してほしい。

子どもは何を思っているのか？
たくさんの笑顔、楽しい気持ち、楽しい遊びを通して枝葉が伸びていき、実をつけていくことにつながる。

自己肯定感はコミュニケーションを通じて育まれていくが、逆に自己完結型の子もいるので、多様性を認めていかななくてはいけない。大人はつい、いい友達・悪い友達という目線で見えてしまうが、それぞれ一人間として個としての付き合いをすると想像力を持つきっかけにもなるのではないかな。